



《令和7年度 学校教育目標》

仲間と未来を創造し 自ら学ぶ子どもを育てる ～やる気 粘り強さ 思いやりの心～

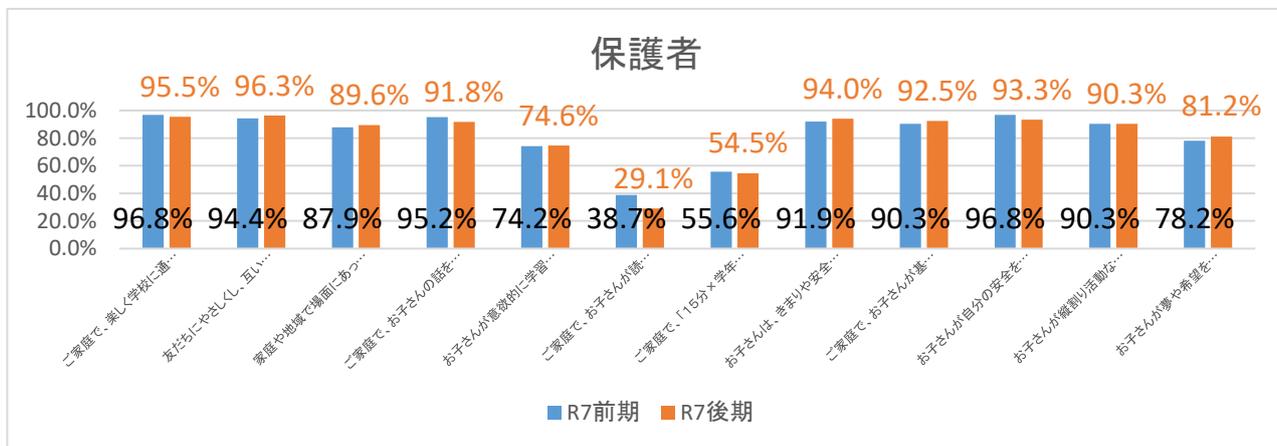
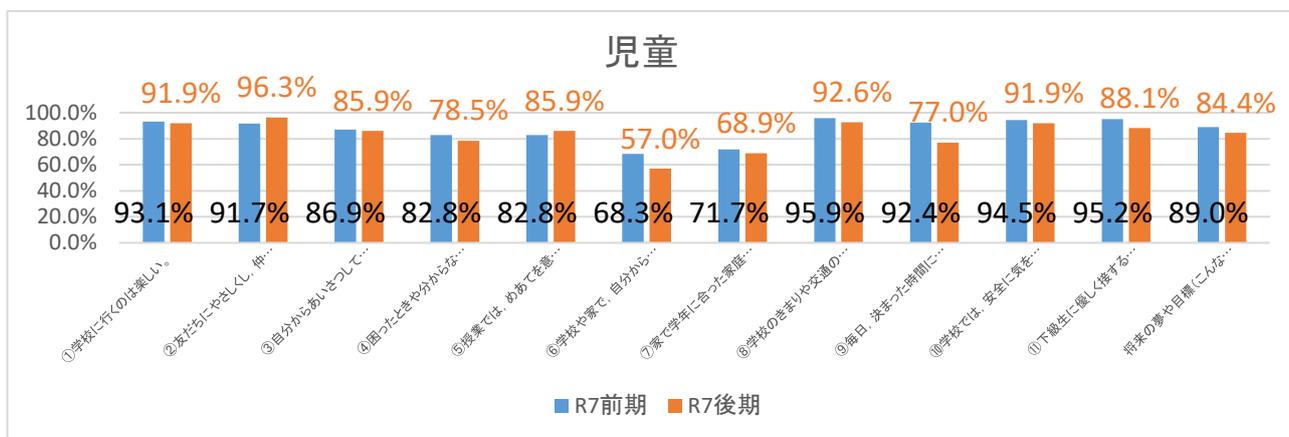
《目指す子ども像》

◎人と協働し考え合う子（主体的・対話的で深い学びを通して）～友達と意見を出し合い、問題解決に向けて粘り強く取り組み考え続ける子ども～

◎人や物、自分を大切にできる子（自尊感情や人権意識、社会的規範意識を育てる中で）～命の大切さを考え、友達気持ちを考えながら相手大切にしながら仲良く活動することができる子～

【教育アンケート（R7 後期）より ～子どもたちの確かな成長と、これから伸ばしたいカ～】

本年度後期の教育アンケートでは、学校生活や学習、家庭での過ごし方などについて多くのご意見をいただきました。その結果から、子どもたちの大きな成長と、今後さらに伸ばしていきたいポイントが明らかになりましたので、ご報告いたします。



1. 【子どもたちの成長が特に見られたポイント】

・友だちとの関わりが“大きく前進”

「友だちにやさしくできている」 ➡ 96.3% と非常に高い結果でした。

日頃から大切にしている「～さんで呼ぶ」「正しい言葉づかい」などの積み重ねが、しっかりと身につけています。

・授業のめあてを意識し、ふり返る姿勢が育っています

「授業でめあてを意識して学習している」 ➡ 前期より増加し 85.9% に。

教室では、子どもたちが「今日はここをがんばる!」と前向きに学習へ向かう姿が多く見られるようになりました。

2.【地域の皆さまの見守りのおかげで、子どもたちは安心して生活できています】

・「安全に気をつけて安心して活動している」…児童 91.9%

教職員側も 100%が「安全指導に取り組んでいる」と回答し、地域の見守り隊のみなさまや、日頃から声をかけてくださる地域の方々のおかげで、子どもたちは安心して学校生活を送れています。改めて深く感謝申し上げます。

3.【一方で見えてきた課題】

～家庭での学習習慣・読書習慣の伸びしろ～

今回のアンケートでは、読書や家庭学習に関わる項目に やや課題 が見られました。

・家で本を読む児童は 57%

保護者の「家庭で読書の環境を整えている」⇒ 29.1% と、保護者・児童・教職員で大きな差が見られました。

※読書に関する詳しい分析と、学年別の課題・取り組みは、別紙「読書特集編」にてご紹介しています。

・家庭学習の実施率もやや下降

・児童:68.9%

・保護者:54.5%

・教職員:80.0%(指導側は引き続き取組強化中)

学校ではこの結果を受け、図書室の本紹介、学級の「おすすめ本コーナー」など、家庭と学校が一緒に取り組める工夫を検討しています。

4.【保護者のみなさまへ】

“1分のできる”教育サポートのお願い

家庭での支えは「量より質」。今日からすぐできて、子どもの力が確実に伸びる2つの習慣です。

(1)「今日の学校どうだった?」の“1分対話”

小さな会話の積み重ねが、相談しやすい心の土台になります。(児童の「困った時に先生・保護者に相談できる」→ 78.5%)

(2)読書の時間を“5分だけ”つくる

スマホやテレビを消して、親子で静かに読む時間を週に数回。この“短く静かな時間”が、読書習慣の定着に大きく寄与します。

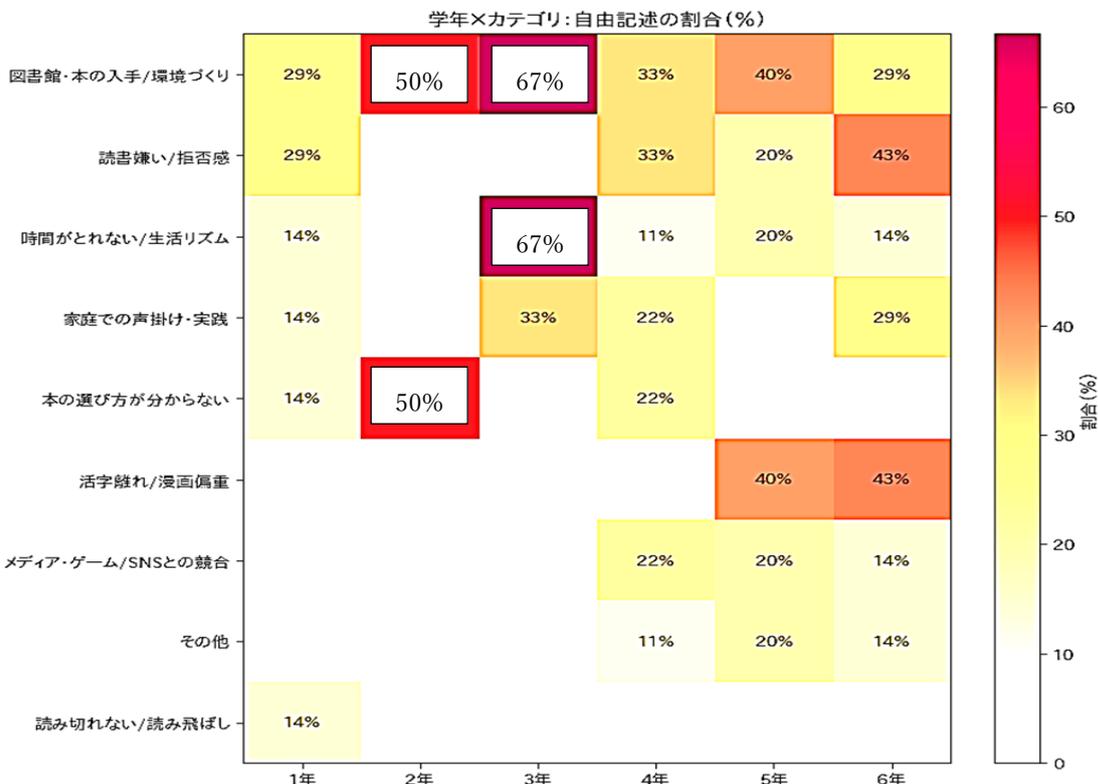
5.【R7 学校評価アンケート自由記述欄に対する回答（後期）自由記述欄より】

保護者の皆様からいただいたアンケートの自由記述欄には、今回も学校の取組に対する温かい感謝の言葉を多数いただきました。一方で、学習内容や学校生活、施設面、教職員の指導に関するご意見も頂戴し、貴重なご指摘として受け止めております。これらのご意見を真摯に受け止め、必要な見直しを進めながら、すべての子どもたちにとって楽しく、より良い学校となるよう、教職員一同、保護者の皆様と協力して改善に努めてまいります。

現在、学校の壁面の補強を行うための工事が続いています。子ども達には騒音などで5月まで、迷惑をかけることとなりますがご理解のほどよろしく願いいたします。また、体育館ですが、4月から建て替え工事が始まります。そのため、来年の1月迄は、体育館を使っての体育や行事を行うことができません。しばらくの間ご迷惑をおかけすることとなります。今後も子ども達にとってより環境の良い学校になるよう委員会とも相談していきたいと考えています。

集団登校については、毎年ご意見をいただいております。まずは、何よりも毎日安全に登校してくれることを願っています。現在、地域の見守り隊の温かいご支援、地域委員さん、ご家庭のご協力により安全に登校できるよう努力を続けていただいております。子ども達の登校については、様々な意見がありますが、今後も地域委員さん、ご家庭と連携しながらより良い方法を一緒に考えていきたいと思っております。

本校ではこれまで、読書に関する課題が続いており、今年度はより実態にせまるため、教育アンケートの中に「読書の工夫や困りごと」を自由記述で書いていただく欄を新たに設けました。その結果、学年によって異なる読書上の課題や、保護者の皆さまが日頃取り組んでおられる工夫、読書にまつわる悩みなどが具体的に増えてきました。本号では、アンケート結果をもとに、学校・家庭・地域が連携して進める本校の読書支援の取り組みについてご紹介いたします。



【学年別に見る読書の現状】

■ 低学年(1・2年)

- 環境づくり・図書館利用の相談が多い(1年:28.6%/2年:50.0%)
- 本の選び方に迷う声(2年:50.0%)
- 読み渋りの傾向(1年:28.6%)
代表の声:「定期的に図書館へ行く」「子どもに合った本が分からない」「本を読みません」

👉 この時期は、“本との出会いを増やすこと”と“選びやすい環境づくり”が特に重要です。

■ 中学年(3・4年)

- 生活リズムや忙しさで読む時間がとれない(3年:66.7%)
- 読み渋りが増加傾向(4年:33.3%)
- 一方で、「図書館へ同行する」「感想をひと言だけ書く」など、家庭での工夫も多く見られました。

👉 学習量の増加や習い事の影響が出やすい時期で、“短時間で続けられる工夫”が効果的です。

■ 高学年(5・6年)

- 活字離れ・漫画中心の読書傾向(5年:40.0%/6年:42.9%)
- 読書への強い拒否感(6年:42.9%)
- スマホやタブレット、動画視聴の習慣が、読書時間の減少に影響しているといった声も。

👉 多様なメディアに触れる機会が増えるからこそ、“興味に合った活字への橋渡し”が大切になります。

【学校での取り組み】

- ① 本が選びやすくなる!『推し本ガイド(学年×興味別)』を発行。
 - 各学年ごと、興味(生き物/スポーツ/ミステリー/笑える話 など)を厳選。
 - 図書室・学校だよりなどでも掲示。
→ 「子どもに合う本が分からない」という声への応答です。
- ② 読み渋りに効く“部分読み OK”のすすめ
 - 「見出し・さわり読みでも読書」
 - 「挿絵を見て“気になった 1 ページだけ読む”」
 - 「音読・対話読書も立派な読書」
→ 特に低学年～中学年の 読み始めのハードルを下げる効果 があります。
- ③ 漫画を“強み”にする読書
(高学年の課題に対応)
 - 歴史漫画 → 児童向けの史実読み物
 - 科学まんが → 児童科学読み物など同じテーマの“活字版”につなぐ動線をつくります。
図書室には「マンガの次はこれ!」リストを掲示。

【ご家庭でできること】

- ④ “家読(うちどく)5分 × 週3チャレンジ”
 - 忙しい中学年の声を受け、まずは5分 に設定。
 - 下のお子さんがある家庭には「寝かしつけ後の親の 1 分音読」もおすすめです。
→ 「時間がない」「読まない」からの“ゼロ→1”を実現。
- ⑤ 読書時間だけは“通知オフ”(高学年のスマホやタブレット・動画中心の課題に対応)
 - 合言葉:「読書5分は通知オフ!」

【地域との連携】

- 地域で読書活動を支えてくださっている「子うま文庫」の皆さまには、毎週金曜日の朝に読み聞かせに来ていただいています。子どもたちは、温かい声で紡がれる物語の時間をとても楽しみにしています。
- また、「子うま文庫」の皆さまからは季節や行事に合わせた“おすすめの本紹介”もしていただき、子どもたちが新しい本と出会うきっかけづくりに大きく貢献していただいています。
地域の温かい支えが、子どもたちの“読書の楽しさ”を支える大きな力となっています。

【おわりに】

学年によって読書の悩みや課題はさまざまですが、共通しているのは「小さな成功体験が読書の入口になる」ということです。学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちが本と出会い、楽しみ、広げていける環境をつくっていただければと思います。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。